

# 支え愛プラン通信

計画推進中!  
Vol.3

## 第3期神奈川区地域福祉保健計画

今回は、社会福祉活動功労者表彰と「かながわ支え愛プラン」の取組や進捗を報告する場として開催した、「みんながつながるまちのつどい（第33回神奈川区社会福祉大会）」の様子をお伝えします。

みんながつながる  
まちのつどい

- 日時：平成30年2月6日(火) / 13時30分～16時
- 会場：かなっくホール
- 主催：神奈川区社会福祉協議会(以下、区社協)、神奈川区役所

### 第1部

## 社会福祉功労者 感謝状贈呈式

神奈川区の福祉活動の発展に貢献された方に対してその功績をたたえ、感謝状を贈呈しました。



福祉活動功労者19名と7団体の方に感謝状を贈呈しました。



金品寄付功労者・団体5団体の方に感謝状を贈呈しました。

### 第2部

## 「かながわ支え愛プラン」の取組について

かながわ支え愛プランは地域住民や企業などの区民の皆さんと、区・区社協・地域ケアプラザ等支援機関が協働して進める計画です。今回は地域と事業者等との高齢分野の協働の取組についての発表を行い、進行と講評をかながわ支え愛プラン策定・推進会議の座長である、聖徳大学心理・福祉学部社会福祉学科教授 豊田宗裕氏に行っていただきました。

### 内容 「かながわ支え愛プラン」の進捗状況等について

今年度は、民生委員・児童委員(以下、「民生委員」と言い、主任児童委員を含む。)、ボランティアなどが協力して運営する子どもの居場所の立ち上げや区内の社会福祉法人が参加した防犯協議会による送迎車両等でのパトロール、また地域サロンへの福祉施設の開放など様々な協働の取組が広がりました。

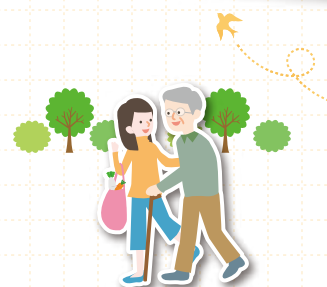
(説明者/福祉保健センター長 深川)



### 内容 地域包括ケアシステムの取組について

横浜市では、2025年(H37)に認知症高齢者の数が現在の1.4倍、要介護認定を受けている人の数が現在の1.5倍になると予想されています。このため、将来に向けて、自分の住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、「住まい」「医療」「介護」「生活支援」(買い物支援や認知症高齢者の見守り等)「介護予防」が一体的に提供される環境づくり(地域包括ケアシステムの構築)を進める必要があります。中でも「生活支援」は地域の取り組みによるものが多くを占めるため、皆さんが行う地域活動が「地域包括ケアシステム」の推進につながっています。

(説明者/区高齢・障害支援課 郷原)



裏面に続きます

## 内容 菅田ハイツ ～高齢者むけ移動販売による買い物支援の取組～

### 始まるまでの経緯

住民支え合いマップ作りと地域での懇談会を通して、地域の2つの課題「買物が困難」と「孤立する傾向にある高齢者・障害者の見守り強化が必要」を把握しました。そこで、近隣の社会福祉法人と協力して移動販売を実施することで見守り活動につなげたいと思い取組を始めました。

### 移動販売の様子

近隣の社会福祉法人の農園で採れた野菜を菅田ハイツの集会所で販売しています。地域清掃での周知や、集会所でカラオケの会などを行う日に販売日を合わせることで、多くの人に来てもらう工夫をしています。また、高齢で一人暮らしの方など当日買い物に来られない人にはボランティアが野菜を届けています。



### 前進したこと

- ①住民が販売ボランティアとして参加し地域の担い手が増えました。
- ②高齢で一人暮らしの人への見守り、声掛けの機会が増えました。
- ③自治会、地区社協、民生委員、ケアプラザ、地域の施設などの連携により、多くの目で高齢者や障害のある人を見守る基礎を作ることができました。



(説明者／写真左から)  
●菅田地域ケアプラザ  
生活支援コーディネーター……中山 亨氏  
●菅田ハイツ自治会 会長……田中 勇次氏  
●菅田地区民生委員・児童委員……細井 さゆり氏

## 内容 六角橋商店街連合会 ～神奈川区認知症高齢者みまもり協力店の取組～



(説明者/  
六角橋商店街連合会会長……石原 孝一氏)

### 活動のきっかけ

平成28年に認知症啓発活動「オレンジプロジェクト」を始めたことをきっかけに、商店街の店舗が認知症の人を見守れるようになることで利用者の大半を占める高齢者にとって商店街を「安全な場所」にしたいという思いで始めました。

### 見守り協力店

各店舗が認知症の理解と対応方法を学ぶ「認知症サポーター<sup>※</sup>養成講座」を開催しました。店舗に個別に声掛けを行ったり、講座を複数の時間帯で開催して合計55店舗が受講しました。講座を受講した店舗は「みまもり協力店」の認定を受けることができます。受講した人からは、認知症と思われる方への声のかけ方が分かった、困った時の相談先が分かったなど、受講して良かったという感想が多く、他の店舗にも口コミで受講が広がるようになりました。

※ 認知症サポーター…認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を暖かく見守り自分のできる範囲で活動する「応援者」のことです。

### 今後に向けて

区全体でこの取組を進め、それが全国に広がることで認知症の人も含めた誰もが暮らしやすい地域になれば、と思います。



### 豊田氏の講評より

かながわ支え愛プランは「地域を支える人材を支援する仕組みづくり」を推進の柱のひとつにしており、地域と企業が連携して課題解決に取り組む環境づくりなどを進めています。

本日発表があった菅田ハイツと六角橋商店街の取組は、誰かの困りごとを人ごとではなく自分のこと、地域のこととして考え、地域の住民や団体、企業など複数の人で共有し、課題解決の取組につなげた先駆的な事例です。他の地域でもこのような取組が多数あると思います。そのような地域の取組が増えることが、かながわ支え愛プランの推進にもつながります。これからも地域の課題について自治会・町内会や地区社協、民生委員など多くの人で話し合う場を持ち、地域に合わせた取組を進めていただければと思います。

